

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮前中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	概ね知識・技能の定着が図れた。更に向上を目指すため、スタディサプリ、ドリルパーク、formsを用いた小テスト等を活用して基本的な知識・技能の反復・習熟を行う必要がある。
思考・判断・表現	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目において、「できている」の割合が昨年度よりも12pt上回っていたことから、今年度の目標に対する策は適切であったのではないかと見られる。次年度もこの研究の取り組みを継続していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「学ぶことや働くことの意義を考えたり、今、学校で学んだこと、自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。」の質問項目では、肯定的な回答の割合が74%であり、市平均よりも1.5pt下回っている。次年度は、キャリア教育についての研究主題となるので、向上するよう研究を進めていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において3pt向上させる。	⇒ スタディサプリや小テスト、ドリルパーク等を活用し、国語では文章読解力や語彙力を増やす。数学では基本的な計算等の反復・習熟を行う。その際、生徒の学習履歴を確認して、質問教室や授業の復習に反映していく。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」における「協働」を重点とした学習活動を行う。例えば、情報を整理し思考を深める。図表を活用し比較分類をさせる。原因と結果を考えさせる。論理的な理由づけをする。(数)目的と相手を意識して書き、分かりやすく伝える等の活動に取り組む。(国)
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を88%以上にする。(R4は約85%)	⇒ 全ての授業において、ICTの活用を進める。Teamsの機能やミライシード、ジャムボードなどを活用した授業を行い、生徒の主体的な学習や協働的な学習を実現し、課題解決に多く取り組ませる。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査では、令和4年度の自校結果と比較して国語・数学は、+2pt・+1ptであった。3pt以上とはならなかったが、向上は見られた。反復して学習させて知識・技能を定着させたい。	B
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査では、令和4年度の自校結果と比較して国語・数学は、+2pt・+2ptであった。目標値である+2ptを達成できた。本校の研究主題の取り組みとして、他者と協働して学習した成果が見られたのではないかと見られる。	A
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、R5年度全国学力・学習状況調査では、肯定的な回答の割合は89%であったが、R5年度さいたま市学習状況調査では、90%であった。目標値の88%以上を達成することができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	全国の平均正答率と比較すると、国語が+2pt、数学が-1pt、英語が+8ptであった。数学ではデータの活用や領域で課題があり、特に四分位範囲の意味を理解しているかをみる問題で正答率が低かった。
思考・判断・表現	全国の平均正答率と比較すると、国語が+6pt、数学が+1pt、英語が+5ptであった。英語では、日常会話的な話題について必要な情報を読み取る問題で課題が見られた。一方で、聞くことについては、平均正答率を大きく上回っていた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が89%であり、目標値を上回った。ICTを効果的に活用した授業を継続し、さらに生徒の主体性を高めていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	「知識・技能」では、令和4年度さいたま市学習状況調査より国語は+2pt、数学は+1ptであった。国語では、特に言葉の特徴や使い方に関する事項で向上が見られた。数学では、特に関数についての事項で向上が見られた。スタディサプリや小テスト、ドリルパーク等を活用し更なる向上を目指す。
中2	「思考・判断・表現」では、令和4年度さいたま市学習状況調査より国語は+1pt、数学は+2ptであった。国語では、特に言葉の使い方に関する事項・書くことに関する事項で向上が見られた。数学では、数と式に関する事項で向上が見られた。「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」における「協働」を重点とした学習活動を行い、更なる向上を目指す。
中3	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、肯定的な回答の割合が、90%であった。また「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目において、「できている」の割合が昨年度よりも12pt上回っていた。本校の研究主題の取り組みとして、他者と協働して学習した成果が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒
思考・判断・表現	変更なし	⇒
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒